

市立函館博物館 友の会々報

No. 64

エゾ地開拓を目指した坂本龍馬

会員 三輪 貞治
〔北海道坂本龍馬記念館〕館長

1. はじめに

平成二一（2009）年十一月十五日（坂本龍馬誕生日・命日）、坂本龍馬が新天地として目指した北海道・函館の地に「北海道坂本龍馬記念館」がオープンし、翌年十一月十五日には記念館向かいに高さ6メートルの蝦夷地の坂本龍馬像が建立されました。龍馬を敬愛する全国の人々の浄財によって開設されたこの記念館には、龍馬を中心とした幕末維新の貴重な資料と共に、龍馬の意志を受け継いで北海道に渡った坂本家子孫ゆかりの資料も展示されています。

また、蝦夷地の坂本龍馬像は「たとえ一人でも蝦夷地開拓をやり遂げる」と手紙に記した龍馬の熱い想いを伝えるシンボルとして全国の皆様に親しまれ、函館の観光名所としても広く知られるようになりました。

龍馬の縁戚・澤辺琢磨が日本人で初めて洗礼を受けた函館ハリストス正教会や、龍馬の跡目を継いだ坂本直が明治政府の役人として赴任した五稜郭の箱館奉行所など、函館は幕末維新の歴史と共に龍馬の後継者ゆかりの地としても知られていることから、函館市の活性化、観光振興などの面からも、これらの史跡や施設と共に当館と龍馬像にも大きな期待が寄せられています。

また、坂本家のご子孫は、北見、浦臼、旭川、釧路、帯広、札幌など北海道内各地に足跡を残しており、龍馬と共に北海道とは深いつながりがあります。今回の発表では、○龍馬の人物像と功績、○坂本家子孫の足跡、○北海道坂本龍馬記念館の趣旨と事業内容という3つのテーマに沿って解説します。



講演する「北海道坂本龍馬記念館」の三輪館長

2. 坂本龍馬について

坂本龍馬は幕末の日本の政治活動家・実業家。土佐藩（現高知県）脱藩後、貿易会社と政治組織を兼ねた「亀山社中」や「土佐海援隊」を結成すると共に、「薩長同盟」の仲介、「船中八策」の起草、「大政奉還」の成立等で活躍し、内戦を避けて日本の近代化を進めるために偉大な功績を残しました。

また、ユーモア溢れる多くの手紙を書いたり、日本で初めて新婚旅行を行うなど、その温かい人柄によって国民的人気を誇っています。

その坂本龍馬が国事と並行して北海道開拓を目指していたことはあまり知られていません。残念ながら暗



坂本龍馬
1835年11月15日～1867年11月15日

殺によってその夢は叶いませんでしたが、後に坂本家子孫の人々が龍馬の意志を受け継いで北海道に移住し、坂本家は現在、北海道札幌市にあります。

龍馬を描いた作品としては、司馬遼太郎の小説『竜馬がゆく』や、アニメ『お〜い竜馬!』などが有名で、平成二年のNHK大河ドラマ『龍馬伝』も大変話題になりました。

先行き不透明な現代日本にあって、坂本龍馬の人物像はより一層の注目を集めています。

3. 龍馬と北海道の深いつながり

龍馬が慶応三（1867）年に書いた手紙には、“私は北海道に渡り、新しい国をつくるのが積年の思いであり、たとえ一人でもやり遂げるつもりです”という決意を記した一節があります（右図参照）。このように、龍馬にとって北海道開拓は悲願ともいえるもので、勝海舟の弟子となった直後から亡くなるまで決して諦めることはありませんでした。

その目的は京都に集まっていた過激浪士たち、あるいは大政奉還後に職を失うであろう若い武士たちの暴発を防ぎ、その大切な命とエネルギーを北海道の開拓と防衛に当たらせようという壮大なもので、いわば屯田兵制度の原型といえるものでした。

龍馬の片腕として活躍し、後に養子となった甥の坂本直（幼名は高松太郎／箱館在住時の名は小野淳輔）は、慶応四（1868）年、五稜郭に置かれた箱館裁判所（後の箱館府／箱館奉行所の建物）の役人として赴任し、箱館戦争にも従軍しています。龍馬の後継者である直がその第一歩を記した場所が箱館（現函館）だったのです。

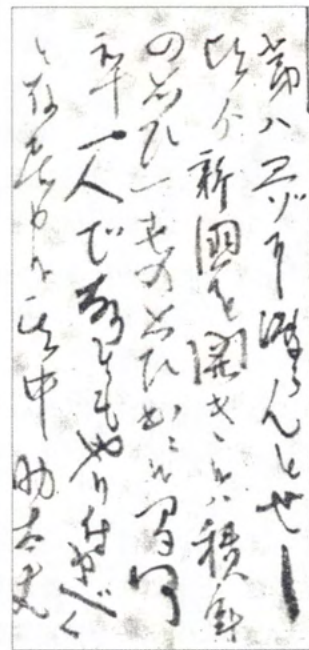
また、龍馬の縁戚にあたる澤辺琢磨も箱館に渡っています。山上大神宮や函館ハリストス正教会などに足

跡を残し、日本人として初めてロシア正教の洗礼を受け、後に司祭にもなりました。函館はペリー来航や箱館戦争など、北海道において幕末維新の歴史を持つ唯一の土地です。もし龍馬が暗殺されなければ、当時の箱館に渡っていたことは間違いのないでしょう。

明治三一（1898）年、直の実弟である坂本直寛（郷土坂本家五代）が家族共々北海道に移住し、以来、坂本家は北海道に根を下ろして現在に至っています。なお、菓子メーカー「六花亭」の包装紙の絵で全国的に有名な山岳画家・坂本直行は直寛の孫で、郷土坂本家八代に当たります（龍馬の甥の孫）。

◆ 龍馬の手紙

慶応三年三月六日 長府藩士・印藤^{いんとう}聿^{しよ}宛て



平井道雄監修 『坂本龍馬全集』 光風社書店より
京都大学附属図書館蔵

小弟ハエゾ（蝦夷）に渡らんとせし頃より、新国を開き候ハ積年の思ひ一世の思ひ出に候間、何卒一人でなりともやり付申べくと存居申候。

4. 龍馬の志を継いだ人々

龍馬が目指した蝦夷地開拓の想いは、彼と共に亀山社中や海援隊で活躍し、後に龍馬の跡目を継いだ甥の坂本直から、直の実弟・坂本直寛へと引き継がれていきました。

坂本直は龍馬亡き後、蝦夷地経営に関する建白書を明治新政府に提出。慶応四（1868）年に五稜郭に置かれた箱館裁判所（後の箱館府／当時の北海道における地方行政機関。現在の司法機関とは異なる）において権判事（ごんのはんじ）となり、新政府軍の一員として箱館戦争にも従軍しています。また、龍馬の再従兄弟（またいとこ）にあたる澤辺琢磨も箱館に渡りました。

坂本直寛は、同志と共に合資会社・北光社を設立して北見の開拓に着手した後、明治三一（1898）年に浦臼へ移住。以後、キリスト教徒だった直寛は開拓と伝道にその生涯を捧げました。

菓子メーカーの包装紙の絵などで知られる山岳画家・坂本直行は、龍馬が新天地として夢見た北海道の自然をこよなく愛し、生涯にわたって描き続けました。

龍馬が目指した未来は北海道という新天地に向かい、その想いは坂本家子孫の人々を通じて今もこの地に生き続けているのです。



坂本直寛（五代）
1853年－1911年



坂本直道（六代）
1892年－1972年



坂本彌太郎（七代）
1875年－1950年



坂本直行（八代）
1906年－1982年

◆北海道移住直前の坂本直寛一家

この写真は、直寛が北海道視察を終えて一旦高知へ戻り、自らが社長をつとめる北光社において募った移民団と共に北海道へ移住する直前、明治三一（1898）年に高知で撮影されたものです。

後列左から2番目が直寛、3人目が直、4人目が直の妻・留、中列左端が直の次男・直衛、4人目が直寛の妻・鹿、前列左端が龍馬の姪・春猪、二人目が直寛の長男・直道。直寛は郷土坂本家五代、直道は六代にあたります。直の妻・留と次男・直衛は、直の没後、直寛のもとへ身を寄せており、今も北海道浦臼町の小高い丘に2人の墓があります。



◆坂本彌太郎の自宅庭で撮影された写真

この写真は彌太郎の自宅庭（札幌市北1条西15丁目）において大正十五（1926）年六月七日に撮影されたもの。後列左から3番目が本家六代・直道、前列左端が七代・彌太郎、前列左から4番目が八代・直行。本家当主三代が揃った大変貴重な写真。（函館市・北村渚氏提供）

5. 函館に渡った龍馬ゆかりの人々

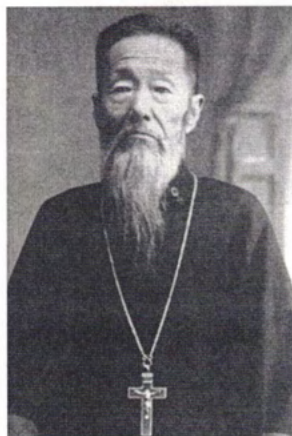
—《澤辺琢磨》伝道に捧げた生涯—

澤辺琢磨（旧名・山本数馬）は、天保五（1834）年一月生まれで龍馬の縁戚にあたり、龍馬とは大変仲の良い幼なじみだったと言われています。

江戸・士学館道場で剣術修行中の安政四（1857）年八月、酒に酔ってトラブルを起こし、不名誉な事件のため切腹させられる恐れもあったところを龍馬と武市半平太の計らいで逃亡しました。

やがて、日本国郵政の創設者となった前島密と共に箱館に渡り、やがて同地の神明社（現山上大神宮）に婿入りして澤辺姓を継ぎ宮司となります。

その後、ロシア正教布教のため箱館に滞在していた



澤辺琢磨
1834年－1913年

ニコライ神父の信念に満ちた教義に心を動かされ、明治元（1868）年四月、現在の函館ハリストス正教会の地で日本人として初めて洗礼を受け、後に司祭にもなりました。晩年は東京神田駿河台のニコライ堂建立にも尽力しています。



山上大神宮



函館ハリストス正教会

一 《坂本直》海援隊で活躍、龍馬の跡目を相続一

坂本直の幼名は高松太郎といい、天保十三（1842）年十一月、土佐郷士・高松順蔵の長男として生まれました。母は龍馬の長姉・千鶴で、龍馬の甥にあたります。

文久元（1861）年九月、土佐勤王党に加盟して尊皇攘夷運動に奔走していましたが、文久三年一月、叔父・龍馬に誘われて勝海舟の門下生となり、海軍術を学びました。以後龍馬と共に行動して亀山社中や海援隊の中心人物の一人として活躍します。

慶応三（1869）年に小野淳輔と改名。かつて龍馬と共に蝦夷地開拓に向けて行動していたこともあり、蝦

夷地経営に関する建白書を新政府に提出。慶応四年には五稜郭に置かれた箱館裁判所において権判事・外国方主任担当官となり、明治二（1869）年には新政府軍の一員として箱館戦争にも従軍しています。

明治四年、朝廷の命により坂本龍馬の跡目を相続して養子となり坂本直と改名。その後は東京府典事、宮内省雑掌、舎人等を歴任し、明治22年には病気を理由に宮内省を退職。高知に戻って弟・直寛の宅に同居し、明治三一年に当地で亡くなっています。

平成二二年に復元された五稜郭の箱館奉行所は龍馬の子孫ゆかりの地でもあるのです。



坂本直（高松太郎）
1842年－1898年



箱館奉行所

6. 北海道坂本龍馬記念館について

北海道坂本龍馬記念館は日本の将来を担う人材の育成、主に青少年の心の育成を支援するため、近代日本の礎を築き、北海道開拓を目指した坂本龍馬の生き方や精神、そして龍馬が生きた幕末維新の混沌とした時代背景、また、龍馬の意志を継いで北海道に渡った子孫の人々の調査・研究などを催すと共に、多くの人々が興味を持ち、学べる場を目指して平成二一年十一月十五日に開館しました。

記念館建設に向けては、平成十三年十一月に実行委員会が発足し、全国の有志による募金活動やPR活動が行われました。翌十四年、団体はNPO法人の認証を受け、以後、記念館建設に向けた活動と並行して社会教育・青少年育成・文化芸術振興に係わる事業・活動を実践してきました。

記念館には龍馬をはじめとする幕末維新の貴重な歴史資料及び坂本直行画伯ゆかりの品々のほか、北海道の開拓や文化に関わる資料も収蔵、展示しています。

また、「龍馬塾」を通して剣道、柔道、空手道、合気道、華道、茶道、香道といった文武両道にたけ、日本古来の精神・文化を身につけた真の国際人たる日本人を育成し、豊かで平和な社会の創造及び社会全体の利益に寄与することを目的として、次のような事業・活動を精力的に推進しています。

(1) 北海道坂本龍馬記念館建設に向けての活動

(平成十三年～平成二一年)

①街頭募金・署名・PR活動

北海道内各地、東京都、神奈川県、大阪府、京都

府、福岡県など全国主要都市にて実施。

②イベント出場

幕末の志士に扮して様々なイベントやパレードに出場。

③さっぽろ雪まつり市民雪像制作参加

一般参加者と共に龍馬の雪像を製作、など。



(2) 北海道坂本龍馬記念館と

蝦夷地の坂本龍馬像について

平成二一年十一月十五日にオープンした記念館の外観は、龍馬が馴染みにしていた京都の旅籠・寺田屋をモチーフとしてデザインされ、坂本家の家紋「組み合わせ角に桔梗紋」がトレードマークとなっています。



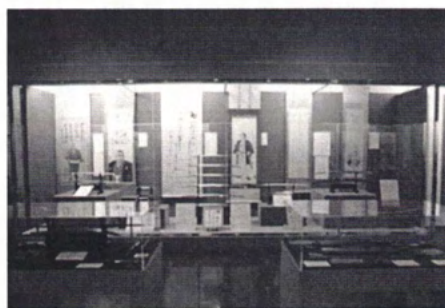
J R函館駅方面から市電で「十字街」電停を降りるとすぐ左側にあります。

エントランスホールでは映像資料や関連書籍が無料で閲覧ができるほか、オリジナルグッズやお土産品の販売コーナーもあります。また、幕末の志士に扮して記念写真が撮影できる貸衣装もあり、若い女性を中心に大変人気があります。

展示室の前半は坂本龍馬の生涯と幕末の時代背景を綴った展示パネルと共に、龍馬の手紙2通や湯呑茶碗、勝海舟や桂小五郎の直筆書入り扇子、ペリー直筆書簡、龍馬が亀山社中で仲介した洋式銃（ゲバール銃やミニエー銃）などの実物資料が並んでいます。

展示室奥中央には龍馬の等身大肖像写真と共に「吉行」、「正宗」、「村正」といった名刀のほか、徳川家康、徳川斉昭、徳川慶喜、福澤諭吉などの書が並んでいます。

後半は、土佐藩主・山内容堂、龍馬、西郷隆盛の肖像画と共に、容堂公の佩刀「左行秀」を筆頭に、中岡慎太郎、西郷隆盛、勝海舟の愛刀と同銘の刀剣類や、龍馬が愛した名刀の数々を



展示しています。

その他にも女性用の刀や護身用に作られた仕込刀などの珍しい刀剣類も展示しており、これだけの刀剣類を常設展示している博物館は全国でも数少ないため、最近は様々なメディアで紹介いただき、刀剣ファンはもちろん、オンラインゲーム『刀剣乱舞』の影響で刀剣に興味を持った、いわゆる「刀剣女士」の方々が連日当館を訪れています。

そして、最後のコーナーでは、郷土坂本家八代当主・坂本直行ゆかりの品々を展示。開拓農業の傍ら、生涯に渡って北海道の美しい大自然を描き続けた直行画伯の息づかいを感じることができます。

記念館の向かい側には平成二二年十一月十五日に建立された蝦夷地の坂本龍馬像があります。台座を含め高さ6mのこの龍馬像は、「たとえ一人でも蝦夷地開拓をやる」という龍馬の強い志が右手の人差し指に込められており、龍馬ファンのみならず世界から函館を訪れる観光客の方々の記念撮影スポットとしてご好評をいただいています。

また、龍馬像のすぐ横にはオリジナル祈願絵馬の奉納台が設置されており、若者を中心に願ひ事や目標、決意などが書かれた絵馬が数多く奉納され、大変話題になっています。



(3)「龍馬祭」事業

毎年、龍馬の誕生日・命日である十一月十五日に合わせ、坂本龍馬を敬愛する全国の龍馬ファンが参集して盛大に開催しています。主な催事としては、○日本の伝統芸能公演、○伝統武道演武会、○記念講演、○

坂本龍馬蝦夷地上陸祈念祭、○HAKODATE幕末ウェディング、○書道コンクール&『百年後の日本人へ』手紙コンクールの表彰セレモニーなどで、龍馬の志を受け継ぐ交流の場として盛大に举行されています。



(4)「龍馬塾」事業

龍馬塾では“未来の龍馬を育てよう！”をスローガンに、主に青少年を対象として次のような活動を行っています。

①寺子屋龍馬塾

日本古来の武道や文化の他、自然や動植物との触れ合い、異文化交流などの様々なテーマで実施しています。

②出前龍馬塾

主に保育園～中学生を対象に、学校や施設に出向

き、紙芝居や寸劇、クイズや工作などを通じて坂本龍馬の生い立ちや業績、幕末維新の時代背景や北海道開拓についての出前授業を実施しています。

③社会体験学修

記念館のほかにも様々な職場や施設を訪ね、体験学修やボランティア活動を通じて“世の為人の為”に貢献することのすばらしさを学んでいます。



7. おわりに

文久三（1863）年六月二九日付、姉・乙女宛の龍馬書簡には、有名な次の一文（一部略）が記されています。

「同志をつのり心を合わせ、
日本を今一度せんたくいたし申し候」

坂本龍馬は「和」を尊ぶ人でした。この「和」には二つの意味があります。一つは日本（の国柄や文化）、そしてもう一つは人と人のつながり（協調や調和）。

幕末、疲弊して機能しなくなりつつあった武家社会（徳川政権）を改革し、国際社会に恥じない新たな近代国家・日本をつくるため、同志たちと協力し合い、命懸けでそれを成し遂げた坂本龍馬。

そして、改革後の次なる大地として龍馬が目指していたのが蝦夷地・北海道でした。

「何卒一人でなりとも、
やり付申べくと存居申候」

和を重んじた龍馬が「たとえ一人でもやり遂げる」とまで言い切った蝦夷地開拓。卓越した先見性を持った龍馬は、北の大地に無限の可能性を感じていたに違いありません。

現代の北海道に生きる私たちにとって、坂本龍馬という人物は偉大な先人であると同時に同志でもあります。ぜひ多くの方々に龍馬を身近に感じ、そしてその志を感じていただけたなら、それに勝る喜びはありません。奇遇にも北海道新幹線開業日という歴史的な日にこの発表をさせていただくことができたことに私は深い意義を感じています。北海道開拓まだまだ道半ばであり、私たちはそれを継承する担い手なのです。

最後に、この機会を与えてくださった市立函館博物館友の会会長・若山直氏並びに副会長・関尚彦氏、準備や助言などでお世話になった理事・木村裕俊氏並びに事務局長・野田明彦氏、刀剣関係の解説を担当してくださった理事・小倉彩子氏、そして発表会当日にご参集くださった会員各位に心より御礼を申し上げます。

今後共ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【参考・引用文献】

- 監修：平尾道夫、編集：宮地佐一郎『坂本龍馬全集』光風社書店
- 宮地佐一郎『龍馬の手紙』講談社学術文庫
- 土居晴夫『坂本龍馬の系譜』新人物往来社

- 函館市編『函館市史』（通説編第二巻）函館市
- 三輪貞治『北海道の坂本龍馬紀行』北海道坂本龍馬記念館

青函トンネルと新幹線を訪ねる旅





福島町
青函トンネル記念館
横綱記念館

木古内町
新幹線木古内駅
道の駅・みそぎの郷 他



道南博物館施設めぐりの旅
開催予定；7月中旬を予定

現在計画中、乞うご期待

【坂本龍馬の略年表】

元号	西暦	年齢	主な出来事
天保6	1835	1歳	11月15日、高知城下本丁筋1丁目に郷士・坂本八平の次男として生まれる。
弘化3	1846	12	6月10日、母・幸死去。この年、楠山塾に入門するが、後に退塾。
嘉永元	1848	14	日根野弁治道場に入門、小栗流剣術の修行を始める。
嘉永6	1853	19	4月中旬、剣術修行のため江戸の北辰一刀流・千葉定吉道場に入門。 6月3日、ペリー艦隊が浦賀沖に来航。龍馬も品川海岸の警備にあたる。 12月1日、兵学者・佐久間象山に入門、西洋砲術を学ぶ。
安政元	1854	20	3月、「日米和親条約」締結。 11月頃、土佐藩の絵師・河田小龍から海外事情を聞く。
安政3	1856	22	8月20日、剣術修行のため、再び江戸へ。
安政5	1858	24	9月3日、江戸での2度目の剣術修行を終え、帰国。「安政の大獄」起こる。
文久元	1861	27	8月、武市瑞山らが「土佐勤王党」を結成。後に龍馬も加盟。
文久2	1862	28	3月24日、龍馬、沢村惣之丞と共に脱藩。下関に向かう。 8月、江戸に下り桶町千葉道場に寄宿。 10月、千葉重太郎と共に赤坂の勝海舟邸を訪問、弟子となる。
文久3	1863	29	5月16日、海軍塾の資金依頼のため、越前福井藩を訪ねる。 10月、神戸で勝の海軍塾・塾頭になる。
元治元	1864	30	この頃、勝海舟との関係で各地を奔走、名士と会う。 8月、京都薩摩藩邸で西郷隆盛と会見。 11月10日、勝海舟が軍艦奉行を免職となる。龍馬の身柄を薩摩藩に託す。
慶応元	1865	31	3月18日、神戸海軍操練所が閉鎖となる。 5月1日、西郷隆盛に伴われ薩摩に入国。この頃長崎に「亀山社中」を結成。 閏5月6日、下関で桂小五郎と会談、薩長同盟を説く。 6月下旬、中岡慎太郎と共に京都薩摩藩邸で西郷と会談。
慶応2	1866	32	1月21日、「薩長同盟」締結。 1月24日未明、伏見の寺田屋で幕吏に襲われ、負傷。 2月5日、桂小五郎の求めで薩長同盟の保証人になる。 3月5日、薩摩藩船で大坂から鹿児島へ。お龍との新婚旅行となる。 6月、幕長戦での下関海戦に参戦し、長州軍を応援、高杉晋作と会談。
慶応3	1867	33	4月上旬、脱藩罪を許されて亀山社中を改編、土佐藩庇護のもと「土佐海援隊」となり龍馬は隊長に就任。 4月23日、「いろは丸事件」が起こる。 6月9日、後藤象二郎と土佐藩船で長崎を出航し、「船中八策」を起草する。 6月22日、龍馬と中岡の立会いで、薩摩の西郷・大久保らと土佐の後藤・福岡らの間に「薩土盟約」締結。 10月3日、大政奉還建白書が山内容堂から幕府に提出される。 10月14日、徳川慶喜、「大政奉還」を願い出て翌日勅許。討幕の密勅、薩長に下る。 11月上旬、「新政府綱領八策」を起草。 11月15日、京都・近江屋で中岡慎太郎と共に刺客に襲われ、凶刃に斃れる。 12月9日、「王政復古の大号令」が出される。
慶応4	1868		3月、新政府「新政府綱領八策」をもとに「五箇条の御誓文」を發布。
明治元			4月11日、江戸城無血開城。 閏4月24日、後に龍馬の跡目を継ぐ甥・高松太郎（坂本直）が、新政府の役人として蝦夷地・箱館（現在の函館市）に渡る。

北海道坂本龍馬記念館で見る日本の名刀

会員 小倉彩子

◆日本刀ブームと北海道坂本龍馬記念館

今日、博物館や美術館においてもメディアの影響が侮れないものとなっており、多くの人を引き寄せる原動力ともなっています。その最たる例が平成27年1月にサービス開始されたオンライン・ブラウザゲームの『刀剣乱舞』です。

『刀剣乱舞』はパソコンをインターネットのゲームサイトに接続して遊ぶもので、戦闘をこなしながら刀や槍などの刀剣を集めるというもの。人気イラストレーターの手によりそれぞれの刀剣は男性キャラクターとして描かれており、若い女性を中心に一大ブームとなりました。

漫画やアニメのファンがその作品の舞台となったゆかりの地を訪れることは「聖地巡礼」呼びますが、ゲームに出てくる日本刀を所有している神社・仏閣・美術館・博物館に大勢のファンが押し寄せることになりました。これまでも日本刀のブームはありましたが、女性中心のブームであること、日本刀を所有する全国各地の博物館に影響を与えたことなど、今までにはないパターンだったと言えるでしょう。

このブームの中、函館の北海道坂本龍馬記念館に対する注目度も高まっています。北海道坂本龍馬記念館は坂本龍馬ゆかりの刀はもちろん、有名刀工の作など50振り以上所蔵していますが、常設展示でこれだけの数の名刀を見られるのは全国的に見ても珍しい例のようです。東京と岡山にある刀剣専門博物館以外では函館だけかもしれません。

北辰一刀流免許皆伝の腕前を持ち刀の目利きでもあったと伝えられる龍馬は数多くの名刀を手にしたと言われています。

北海道坂本龍馬記念館の自慢の日本刀をコレクションの中から、愛刀家垂涎の名刀や函館にゆかりある刀工の作など、特に注目したい日本刀を選びすぐにご紹介したいと思います。

◆陸奥守吉行

龍馬が慶応三年（1867）年十一月十五日に京都・近江屋で暗殺された時の佩刀で、暗殺の前年、兄・権平に国難に臨むにあたり是非とも家宝の刀が欲しいと手紙で強請り、譲り受けたもの。龍馬も大変気に入り、人々から褒められたことを自慢する手紙まで残されています。

吉行は大阪の名工・大和守吉道の門人で土佐藩に招聘されたことから「土佐吉行」とも呼ばれています。土佐藩でも身分が高い者など一部しか手にすることが出来ませんでした。坂本家が身分は郷士（下級武士）でも元は裕福な商家であったことから入手出来たようです。

龍馬の死後、陸奥守吉行は坂本家の移住と共に北海道に渡り、後に大正二年（1913年）の釧路大火で焼損。昭和六年（1931年）に恩賜京都博物館（現京都国立博物館）に寄贈され今日に至ります。しかし伝来に不明瞭な点ありとして重要文化財の指定からは外されていました。昨年新たな資料が発見されたことで今後重要文化財に指定され直す可能性も出てきました。

北海道坂本龍馬記念館蔵のものは龍馬の佩刀と同じ吉行の作で、刀と脇差の二種。常設展示中の刀は京都国立博物館蔵と同じ「吉行」と二字で銘を切るもので、「行」の字の足が長いのが特徴です。龍馬が愛した陸奥守吉行がどんな刀だったか、焼損する前の元の作風を十分窺い知ることの出来る資料となっています。



(写真上段が陸奥守吉行の刀)

◆源正雄

龍馬が江戸で剣術修行をしていた頃に手に入れ、慶応三年（1867）に兄・権平から陸奥守吉行を受け取る際に西郷隆盛の近従の熊岡某にそれまで長く差していた源正雄の刀を譲ったと伝えられています。

源正雄は名工として今日でも絶大な人気を誇る源清麿が源正行と名乗っていた頃古参弟子で、美濃の生まれ。本名を鈴木次郎と言います。

安政五年（1858年）には函館奉行・堀利熙の請願を受けた幕府の命により函館に赴き、万延元年（1861年）までの三年間、函館において東部沿岸より産出される砂鉄を用いて鍛刀しました。安政六年には江戸城において将軍に上覧され、そのまま奥向きに置かれたたことも記録に残されています。

北海道指定文化財となっている函館博物館蔵は「安政六年八月日於箱館以沙鉄造之」と銘があります。

また江戸に帰った後の作にも「蝦夷の南海宇賀浦乃砂鉄を以て」と銘打つものがあり、函館を去るときに大量の砂鉄を持ち帰ったことが分かっています。

正雄の没年は不明ですが、嘉永六年（1853年）から慶応元年（1865年）までのわずか12年間しか作刀が見られません。

弟子には隆慶一郎の『鬼麿斬人剣』のモデルと噂される鬼普麿正俊、洋鉄を用いた作刀では右に出る者がいないと言われた羽山円真がいます。

達筆な草書体で銘を切るのも特徴の一つです。

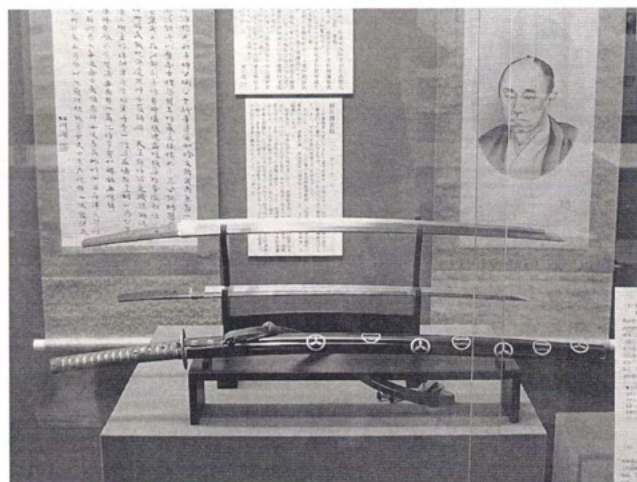


(写真上から四段目：源正雄)

◆左行秀

幕末に活躍した刀工で、「東の清麿、西の行秀」と並び評される名工。土佐に招かれ作刀しましたが、鍛刀所が坂本家の近所にあり、龍馬が刀の目利きだったのは行秀の影響と言う人もいます。また龍馬が行秀の作を所持していたという口伝も残されています。

北海道坂本龍馬記念館が所蔵する行秀は紛うことなき土佐藩主山内容堂公の御物であり、豪壮な姿を誇っています。丸に三つ細柏の山内家の家紋入りの拵えも必見です。



(写真上段・左行秀、下段・山内家の拵え)

◆江戸三作

江戸時代後期刀工の中でも、源清麿、水心子正秀、大慶直胤の三名は「江戸三作」と評されました。

源清麿は信濃の生まれで上田藩で刀作りについて学んだ後、江戸に出て軍学者・窪田清音の元で作刀しました。「清」は後見者であった清音から一字頂戴した物。

「四谷正宗」の異名を持つ腕前とは対照的に、出奔したり、自刃したりと波乱に満ちた生涯を送りました。

斬れ味に優れ、「今宵の虎徹は血に飢えている」の名台詞で有名な新選組の近藤勇の佩刀・長曾根虎徹は、実は清麿の作であったという説もあるほどです。

水心子正秀は刀が実践で使われることが少なくなった江戸時代後期に、鎌倉時代の刀の復古を目指し、衰退しつつあった日本刀界に新風を注ぎ込みました。

また、多くの刀と弟子と指南書を残したことから新々刀の祖と呼ばれています。

龍馬に大きな影響を与えた勝海舟の佩刀がこの水心子正秀です。

大慶直胤（藤直胤）は水心子正秀の門人の中でも屈指の腕前を誇り、師の正秀を凌駕する名人です。

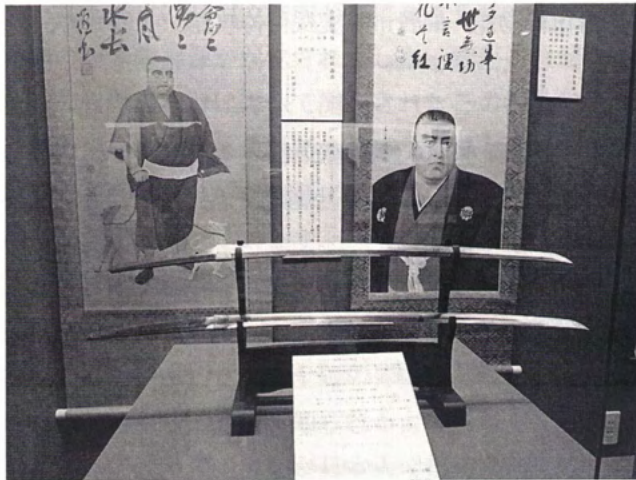
様々な技法に通じ、全国各地を旅してそれぞれの土地の名が銘に入ったものを幾つも残しています。

◆妖刀・村正

世に妖刀として知られる千字村正は伊勢の国の刀工で、鎌倉後期に活躍しました。

家臣の謀反によって殺された徳川家康の父と祖父を討ったのも、家康の嫡男・信康が死罪となった時に介錯したのも、関ヶ原の戦いで家康が指を切ったのもこの村正。徳川家を崇る妖刀として所持が禁じられました。

倒幕の志士に好まれ、古くは由井正雪、幕末では薩摩藩の巨魁・西郷隆盛が愛用したと伝わっています。



(写真上段・千字村正、下段・水心子正秀)

◆天下三作

天下人として君臨した豊臣秀吉が特に愛した名工が相州正宗、郷義弘、栗田口吉光です。

相州正宗は鎌倉時代末期に活躍した刀工で、大名家がこぞって所持したと言われる名刀の代名詞。五箇伝の一つである相州伝を確立させました。

龍馬もこの相州正宗の短刀を所持していたと伝えられている他、土佐出身で三菱の創始者である岩崎弥太郎が金に糸目を付けず買い集めたことでも有名です。

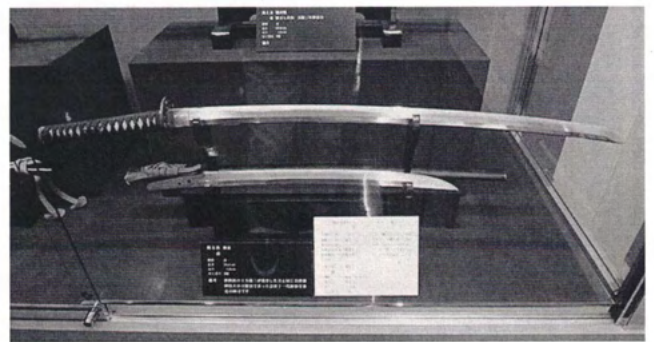
郷義弘は正宗の弟子の一人で、銘の入った物がないこと、夭折したらしいことから「郷とお化けは見たことがない」と言われる程珍しい刀です。江戸時代以降は「江」と呼ばれています。

栗田口吉光は別名を藤四郎。短刀作りの名手として知られ、現存する多くが短刀。吉光唯一の太刀である一期一振は豊臣秀吉の愛刀であり、背の低かった秀吉は自分に合わせて短くしました。大阪の陣で豊臣家の栄華と共に焼け、修復の後、皇室御物となっています。

◆和泉守兼定

新選組副長の土方歳三の佩刀として知られているのが幕末の会津藩工、十一代（又は十二代）・和泉守兼定です。十一代兼定もまた会津藩と共に土方同様、戊辰戦争を戦い抜きました。

土方の遺刀は東京日野市の土方歳三は記念館にありますが、北海道坂本龍馬記念館でも同工の作を刀と脇差の大小揃いで展示中です。



(写真 和泉守兼定の刀と脇差)

◆終わりに

箱館戦争が終結した後、明治九年の廃刀令と共に多くの刀工が廃業を余儀なくされました。函館は武士の魂であった刀の時代の終焉の地であり、それだけにこの地に多くの刀が集められていることには感慨深いものがあります。

箱館戦争で使用された遺刀や函館打ちの刀が眠っている可能性があり、特に源正雄については今後詳細な研究が待たれるところです。

平成27年度の主な事業（報告）

1. 「友の会通信」・「友の会会報」の発行

- (1) 友の会通信 第41号（平成27年9月30日）、第42号（平成27年12月28日）
- (2) 友の会会報 第64号（平成28年3月31日）

2. 例会・講座等の開催

- (1) 講演会（総会終了後に開催）平成27年5月30日（土）14時00分～15時00分
演題 「市立函館博物館とサイベク遺跡」 会場 五島軒本店 参加者39名
講師 市立函館博物館 学芸員 小林 貢 氏
- (2) 道南の博物館等施設めぐり（江差町歴史散歩の旅）平成27年7月8日 参加者22名
開陽丸記念館、歴まち通りの散策、江差追分の実演と体験学習、法華寺八方睨みの龍、
江差歴史資料館。
- (3) 市立函館博物館特別展の見学会
テーマ 「千島樺太交換条約とアイヌ」平成27年8月26日（水） 参加者13名
解説者 市立函館博物館 学芸員 大矢 京右 氏
- (4) 山形・宮城県の博物館を訪ねる旅
平成27年10月13日（火）～15日（木） 参加者10名
米沢市上杉博物館、仙台地底の森ミュージアム、仙台市博物館、仙台市歴史民俗博物館、多賀城跡、
東北歴史博物館、松島瑞巖寺、円通院と観瀾亭。
- (5) 会員発表会
平成28年3月26日（土）13時30分～15時30分 会場 五島軒本店 参加者35名
テーマ「蝦夷地開拓を目指した坂本龍馬」 発表者 会員 三輪貞治氏・小倉彩子氏

3. 博物館事業の後援・協力

- ・特別展「千島樺太交換条約とアイヌ」・企画展・博物館講座等の後援
- ・監視業務（ボランティア）【特別展「千島樺太交換条約とアイヌ」平成27年7月11日（土）～
8月30日（日）の各日曜日（8日間）】

現在、次の企業・団体から協賛を頂いております。改めて御礼申し上げます。

- ・(株)エスイーシー ・金森商船(株) ・(株)建築企画山内事務所 ・(株)五島軒 ・五稜郭タワー(株)
- ・(株)佐藤公郎建築設計事務所 ・(有)三和印刷 ・(株)千秋庵総本家 ・(財)相馬報恩会 ・名美興業(株)

(敬称略・50音順)

市立函館博物館友の会会報 No.64

発行所 市立函館博物館友の会

印刷所 (有)三和印刷

電話 0138(45)0845

平成28年3月31日 発行

函館市末広町19-15 郵便番号040-0053

市立函館博物館郷土資料館内 電話0138(23)3095

振替口座 函館02650-0-2216